

サミットテーマ

海と生きる未来を描く  
～未来で「海と生きる」ために必要なことを考える～

1 目的

今回の「海洋教育こどもサミット」は、海洋教育パイオニアスクールプログラム（地域展開・アドバンス部門）の一環として、東北各県で取り組んでいる「海と生きる」を学ぶ探究や実践の成果を児童・生徒が主体となって発表・交流し、自己の考えを他者に伝え多様な考えに出会い、一人一人の課題意識と多角的・多面的思考を深めながらこども主体の学び合いの輪を広げるきっかけとして開催する。

2 期 日 令和4年11月25日（金） 13:10～16:00

3 会 場 各校 ※参加校は全てオンラインによる参加

4 主 催 宮城県気仙沼市教育委員会

5 共 催 気仙沼E S D / R C E 推進委員会  
岩手県洋野町教育委員会 福島県只見町教育委員会 山形県鶴岡市教育委員会

6 参加校 ・東北地方（宮城県気仙沼市、岩手県洋野町、福島県只見町、山形県鶴岡市）の海洋教育パイオニアスクールに参加している小・中・高等学校

7 オンライン使用アプリ web 会議ツール（Zoom）

9 日 程

【開会行事】13:10～13:20（10'） ※Zoom メインルーム

進行：宮城県気仙沼高等学校 生徒

- ① こども代表の開会宣言 宮城県気仙沼市立鹿折小学校 児童
- ② あいさつ 日本財団 海洋事業部 部長 梅村 岳大 様
- ③ サミット全体のねらいの共有 宮城県気仙沼高等学校 生徒

【実践発表・学び合い】13:25～14:45（80'） ※Zoom グループルーム

進行：気仙沼市立の中学校生徒を中心に、同高等学校生徒がサポート

- ① Zoom にて4～5校ごとに別れ、実践発表と質疑を行う。（発表代表は4名程度）
- ② 交流グループは小・中・高等学校の異年齢（異校種）構成で行う。
- ③ 1校につき、発表10分+質疑5分（計15分）とする。発表10分間の使い方は自由とする。
- ④ 3校発表の後、休憩（5分間）を挟み、後半2校の発表を行う。

《オンライングループ編成・発表順・進行（下線）》 ※印：ファシリテーター専任（発表なし）

- 第1グループ 種市小 → 鹿折小A → 大山小 → 只見中 → 気仙沼高校A
- 第2グループ 林郷小 → 唐桑小 → 角浜小 → 階上中 → 気仙沼高校B
- 第3グループ 帯島小 → 大島小 → 中野小 → 面瀬中 → 気仙沼高校C
- 第4グループ 宿戸小 → 面瀬小 → 向田小 → 唐桑中 → 気仙沼高校D
- 第5グループ 九条小 → 只見小 → 中井小 → 種市中 → 気仙沼高校E（※）
- 第6グループ 階上小 → 大谷小 → 大野中 → 加茂水産高校 → 気仙沼高校F（※）
- 第7グループ 朝日小 → 松岩小 → 中野中 → 気仙沼高校G
- 第8グループ 小泉小 → 大野小 → 鹿折小B → 大谷中 → 気仙沼高校H（※）

※ 気仙沼向洋高等学校による録画発表・視聴（学びの問いかけを含む） 14:55～15:05（10'）

※ Zoom メインルーム

【学びの深め合い】 15:05～15:50（40'） ※Zoom グループルーム

ファシリテーター：宮城県気仙沼高等学校生徒を中心に、気仙沼市立各校の教員がサポート

深め合いテーマ 『未来で「海と生きる」ために、必要なことは何だろうか？』

※ 海のあり方、人の暮らし方は、場所や条件によって変わります。多様な地域の海と人々のかかわりを知り、これまでの海についての学びとのつながりに気付きましょう。そして、新しい視点で「海と生きる」ために必要なことを探ってみましょう。

※ 多様な地域の海との生き方をもとに、気仙沼の人々が大切にしてきたことを振り返りましょう。これからも「海と生きる」ために、どのようなことを大切にしていけるべきでしょうか。広い視野と多様な視点から考えてみましょう。

〔「海と生きる」を学ぶガイドブック まとめ（pp.48-49）より〕

《サミット当日までの事前準備》

- ・ サミットに参加する児童生徒全員は、テーマについての考えを事前にワークシートを活用して整理し、サミット当日までに自分なりのキャッチコピーを小パネルに清書しておく。ワークシートと小パネルは、予め参加発表校に送付予定。

《学びの深め合いの進め方》 ※詳細は「別紙：【重要】当日運営・本番シナリオ」で確認願います。

- ① 進め方の説明 ファシリテーターの高等学校生徒が、流れと方法、ルールなどを簡単に説明
- ② グループ内（4～5校）での伝え合いと深め合い
  - ・ 代表の児童生徒は、自分のキャッチコピーを提示し、テーマについて考えたこととその理由や根拠をお互いに伝え合いながら、他とのとのつながりや比較などグループ内でそれぞれの意味を深掘りしていく。
  - ・ キャッチコピーに書いたことや出し合った考えをもとに、「未来で『海と生きる』ために必要なこと・ものは何か、それはなぜか」についてグループ全員で整理し、「そのことに私たちはどう向き合うのか／どうしていくのか」について方向付けしていく。
  - ・ グループファシリテーター（高等学校生徒）は、グループ内で整理したことについて簡潔に伝え、参加者全員で共有する。（※Zoom メインルームへ移動）

【閉会行事】 15:50～16:00（10'） ※Zoom メインルーム

進行：宮城県気仙沼高等学校 生徒

- ① まとめのことば 東京大学海洋教育センター 田中 智志 様
- ② こども代表の閉会宣言 岩手県洋野町立大野中学校 生徒

※ 事務連絡

10 今後のスケジュール

- ・～10月7日（金）まで 発表テーマ・発表要旨、参加者リスト・代表児童生徒の最終報告（厳守）。
- ・～10月24日（月） 全ての参加校へ「学びの深め合い」で活用するワークシート（事前学習用）とフリップパネル（清書用）を発送。
  - ※ 代表児童生徒を含む、視聴する参加者全員分（同学級、同学年分）を送付。
  - ※ 写真や動画は、海洋教育パイオニアスクールプログラムで活用・公開する場合あり。
- ・～11月中旬まで 全ての参加者は「学びの深め合い」ワークシート（事前学習用）に記入しておく。
- ・～サミット2、3日前まで 全ての参加者は「学びの深め合い」フリップパネル（清書用）に記入しておく。
- ・11月21日（月）、22日（火） 16:30～18:00 オンライン接続テスト（任意参加・事前申込み必要）

# 第11回海洋教育こどもサミット in 気仙沼 (オンライン大会)

令和4年11月25日(金)に、気仙沼市教育委員会主催の『第11回海洋教育こどもサミット in 気仙沼』をオンラインで開催しました。気仙沼市、岩手県洋野町、福島県只見町、山形県鶴岡市の4地域32の小中高校による実践発表と、「未来で海と生きるために必要なことは何か」をテーマとした学びの深め合いを行いました。初めて小中高の異校種編成でのサミットとして進行を中学生、ファシリテーターを高校生が務め、内容と学び方の縦のつながりの中で海への考えを広げ、深められた交流になりました。深め合いでは自分の考えを事前にフリップに書き表し、それを提示しながら交流したことで、海に対する互いの思いを可視化でき、思考の整理と深まりが見られていました。



## 開会行事 13:10~13:20

- 1 こども代表の開会宣言 … 気仙沼市立鹿折小学校 6年代表児童
- 2 主催者あいさつ … 日本財団 梅村 岳大氏
- 3 サミット全体のねらいの共有 … 気仙沼高校 2年代表生徒



## 4地域・32校による発表・学び合い(異年齢構成での8グループ/進行:中学生) 13:25~14:45

グループ	学校名	発表テーマ
第1グループ	種市小	ふるさと種市 新発見
	鹿折小A	海で復興「気仙沼の魅力発信プロジェクト」
	大山小	ふるさとと海とともに～海を感じ、知り、学ぶ～大山小海洋教育プロジェクト
	只見中	地域に学び、地域と共に発信する只見中学校の取組
	気仙沼高A	三陸の海産物を使った獣害対策は可能か

グループ	学校名	発表テーマ
第6グループ	階上小	海の世界を知り、自分たちにできることを考えよう～階上のわかめの秘密を探ろう～
	大谷小	大谷の未来のまちづくり
	大野中	大野の過去・現在・未来から洋野の海について考える
	加茂水産高	海をテーマに加茂地区と連携・活性化
	気仙沼高F	(ファシリテーターとして参加)

グループ	学校名	発表テーマ
第2グループ	林郷小	私たちの未来を考える
	唐桑小	ふるさと唐桑のよさを生かしたまちづくり
	角浜小	ふるさと角浜 プロフェッショナルたち～ワカメ・コンブのプロと角浜の未来を考える～
	階上中	防災・減災を軸とした海洋教育～個人探究を通じて地域・社会とつながりを考える～
	気仙沼高B	ICTを活用して気仙沼の水産業を活性化させるには

グループ	学校名	発表テーマ
第7グループ	朝日小	ふるさとを守るために、自分たちにできること
	松岩小	気仙沼の魅力を伝えよう～私たちは気仙沼の海大使～
	中野中	ヒロノジから学ぼう
	気仙沼高G	四季折々の気仙沼大島の魅力でインドネシア人観光客を呼び込もう！

グループ	学校名	発表テーマ
第3グループ	帯島小	海の豊かさを守ろう
	大島小	緑の真珠プロジェクト～見つめよう大島 考えようわたしたちの海～
	中野小	洋野町の未来を考えよう～洋野の海やサケのためにできること～
	面瀬中	「海と生きる」気仙沼～食・環境・地域・産業を通して～
	気仙沼高C	未就学児が震災時の防災行動を学ぶには

グループ	学校名	発表テーマ
第8グループ	小泉小	小泉の未来を考えよう
	大野小	未来へつなぐために～山と海のつながり～
	鹿折小B	世界とつながるほくらの海郷学
	大谷中	海と生きる大谷地区がより活気づくためのプロジェクトを提案し、行動しよう
	気仙沼高H	(ファシリテーターとして参加)

グループ	学校名	発表テーマ
第4グループ	宿戸小	未来のために、わたしたちにできること
	面瀬小	ふるさと気仙沼の海
	向田小	私たちの未来をソウゾウしよう
	唐桑中	救え！唐桑の養殖業
	気仙沼高D	若者の海離れを防ぐために私たちにできることは何か

グループ	学校名	発表テーマ
録画	気仙沼洋高	水産廃棄物「ホヤ殻」の魚類餌料への転用 第二報～養殖対象魚ヒラメへの給餌試験～

グループ	学校名	発表テーマ
第5グループ	九条小	気仙沼の魅力を探ろう
	只見小	ふるさと只見の産業を考える～地域産業発展のために～
	中井小	海と関わるわたしたち
	種市中	地域・海を知る～種市のウニを通して～
	気仙沼高E	(ファシリテーターとして参加)





深め合いテーマ 『未来で「海と生きる」ために、必要なことは何だろうか?』

●世界中の全ての人々が一度でいいから自然について考える。●海ごみ問題を未来までつなげていくことが大切。●海の環境を考え、花や木などの植樹活動やエコバックを積極的に使う。●エコな暮らし方をする。●海の魅力を広める。●海で働く人を増やす。●海に感謝して生活する。●海を人と同じ扱いをする。●魚を人間の立場だと思って考える。●今の海のことを知る。●自分たちから海を守るために周りの人を巻き込むアクションを起こす。●海と人との循環を守る。●他国との協力。●一人一人が海への思いを持ち、自分ができることから始めていく。●海を守る。●災害対策(津波)への備え。●海を大切に、まちも大切に。●自然や生き物に優しい自然分解するプラスチックが必要。●ゴミ拾いをして環境を汚さない。●皆で思い、皆で動かす。●壊れにくい物を買う。●川の上流のゴミ拾いをしてきれいに保つ。●月2回のゴミ拾いをする。●ポイ捨てをせずに海の命を守る。●海に行くと魚を釣り、魚を好きになって海を好きになる。●多くの人に魚を食べてもらい美味しさを知ってもらう。●海について学ぶイベントを開く。●環境に配慮した取組を続けていく。●ゴミをできるだけ出さないよう行動する。●海を汚さず水産資源を守る。●海洋汚染を防ぐための一人一人の意識。●親しむ、知る、利用する、守る、伝える。●二酸化炭素や排出ガスを少ししか出さなくても便利に使える機械が必要。●ゴミのないきれいな環境を維持する。●人と海との対等な関係づくり。●みんなが海を知り、海で活動する面白さを知る。●川をきれいにする。●一人一人の意識(ポイ捨てをしない、自然を大切にする、ゴミを増やさないなど)と海への感謝(海をきれいに、海の使い方を考えるなど)。●海に感謝し、海を敬い、共に生きられる昔の海を取り戻す。●一人一人が海を愛する(共存と親しみ)。●魚の種類が多く、観光地にもなっている加茂の海と生きる。●海に興味を持ち、積極的に学ぶ。●環境が変化しても海のことを学び続ける。●海の魅力だもれ注意。財宝級の宝の海。●これからも共に進化していく海と生きる。●海が好きという気持ち。●海で多くの人と活動。●山の掃除。●残食ゼロ。●人の絆。など



閉会行事

15:50~16:00

1 まとめのことば … 東京大学海洋教育センター長 田中 智志 氏

◆大事なことは、皆さんの行動が広く社会に伝わるためのコミュニケーションが大切ということ。温暖化の問題等に関心のない人たちに対してどのように働き掛けていくか、共にどのように考え、いかに行動していくか。  
 ◆自然について考えると、思考の中でも重要な「想像力(理念を創り出す=希望を抱く)」を働かせることであり、海の未来を考える大切な要素。自然とは「外から力を加えなくとも中から何か生まれてくる」の意味で、人間の内にも存在し、人間も自然の一部であるから隔てるものではない。  
 ◆「美」を素朴に感じる情緒(感性)は、「幸(福)」と一体的な概念。  
 ◆海洋教育で大事なものは実践の中で「巻き込まれる(興味関心)」こと。

2 こども代表の開会宣言 … 洋野町立大野中学校 2年代表生徒  
 ※ 事務連絡(気仙沼市教育委員会)

